

受診せず検査自宅療養可

外来逼迫時 重症リスク低い人

厚生労働省は24日、新型コロナウイルスの感染拡大で外来診療が逼迫した場合、40歳未満などで重症化リスクが低く軽症の人は、受診せず自分で検査して自宅療養することを選べるようになる」と発表した。これまでには症状があれば原則受診してきた。

一部の自治体で外来患者が急増して検査や受診に時間がかかっていること、コロナ対策を政府に助言する専門家の有志が21日に提言した」となどを踏まえた。同省は、外来の逼迫度合

いを2段階に分け、対応方法を示した。自治体が感染状況に応じて採用する。

最初の段階を「発熱外来の受診に一定の時間がかかる場合」と定義。「40歳未満で基礎疾患がない、ワクチン2回接種済み」などの重症化リスクが低い人に

は「外来の逼迫が想定される場合」。重症化リスクが低く軽症なら受診せず、自ら検査した結果を、自治体が設置し医師がいる健康フ

オローアップセンターに連絡。受診が不要なら自宅療養することができる。

後藤茂之厚労相は24日の会見で「外来が逼迫しないよう工夫するため。(希望すれば) 検査せずに受診してもらつても構わない」と述べた。
(枝松佑樹)